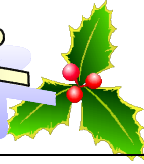




川原っ子



平成30年12月12日(水)

川原小学校 学校便り

No. 8

ふるさとは、今ここにある

ー生誕1,300年と100年とー

今年も、はや暮れようとしています。

今年が高岡市にとってメモリアルな年でした。大伴家持の生誕1,300年、そして、高岡生まれの芥川賞作家、堀田善衛の生誕100年。新聞やニュースなどマスコミで大きく取り上げられました。

本校では、「ふるさとの優れた先人に学ぶ作文コンクール」に5年生と6年生の全員が応募しました。大伴家持について学んだことを全員が作文に書きました。

例えば、5年生の作文には「私は、ふるさとから遠くはなれた所でくらさなければならなくなったら、きっとその土地についての歌なんてよめないだろうと思います。家族や奈良（家持のふるさと）のことばかりを思い出しては悲しんでいると思います」、6年生には「私は、自分のふるさとを忘れず愛すこと、他の所に行ってもその場所のすばらしさを見つけることの思いを学びました」とあります。子供たちの作文には、高岡の出身ではない家持が自身のふるさとを想うと同時に、私たち自身が今暮らすこの高岡の人と自然を愛したことへの発見が切々とつづられていました。



この夏、冷房の効いたコンピュータ室にて

一方、高岡を離れ世界で活躍した堀田善衛は、「時代と人間」の中にこう記しています。「歴史というものは過去のものであって、現在とはかかわりのない、ということは、これは人が生きている限り絶対はないのである」歴史から学ぶことの重要性を訴えています。

先月の終わりに、富山市のガラス美術館で開催されていた星野富弘の「花の詩画展」を見る機会がありました。大勢の人が列をなし、ゆっくりゆっくりと一つ一つの詩画を目と心に焼き付けているようでした。そして、その最後に「・・・故郷以外のものを見つけようとして歩いた道は、無意識のうちに故郷に通じる道ばかりだった・・・」（「カントリーロード」）、ふるさとの素朴な風景を口にくわえた筆で描いた絵と、この言葉を見つけました。

先日、給食の時間の終わりに、ふとグラウンドを見ると、真昼であるにもかかわらず校舎の影がグラウンドの半分以上を覆っていました。あの暑かった夏は、もう遠い昔のようです。グラウンドのむこうには、いつも見慣れている町並みが輝いて見えました。



子供たちには、毎日のありふれた風景や日常の中にこそ真実があること、そして、かけがえないふるさとがそこにあるということを、折にふれ伝えていこうと思います。



12月のかわらっ子

寒くなっても元気です！

12月に入り、一段と寒さが増してきました。でも子供たちは元気です。休み時間や昼休みには、多くの子供たちが廊下や多目的ホールで動きまわって楽しんでいます。鉄棒で逆上がり、そしてなわとびなどをして遊ぶ子供たちが多いです。川原っ子のなわとびには、カードが存在します。友達に数を数えてもらいながら、出来たらカードに色を塗ってもらいます。「スタートコース」「チャンピオンコース」「神様コース」へと上達していきます。子供たちは一生懸命です。

12月 休み時間の子供たち

グラウンド

- ・ サッカー
- ・ ドッジボール

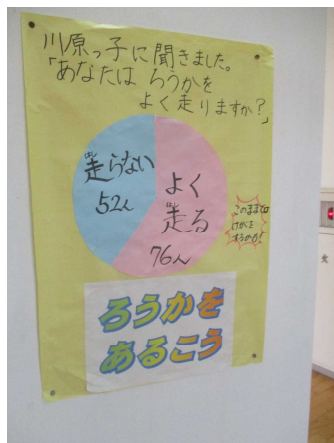
廊下や多目的ホール

- ・ なわとび
- ・ 鉄棒
- ・ コマまわし
- ※特に1年生
- ・ 暖房の近くでおしゃべり



委員会活動も活発に！

本校の児童会には、6つの委員会があります。それぞれ活発に活動しています。今、目を引くのは「運営委員会」の廊下を走らないキャンペーンです。廊下を走るお友達が増えたことに気づいた運営委員会。走ると怪我をしたり事故になったりと危険です。自分たち自身でそれを改善しようと考えました。今、廊下のところどころには、走ることを警告するかのよう大きなパーテーションが置かれています。そこには、歩くよう啓発するアイデアあふれるポスターが貼られています。



「ろう下を歩こうキャンペーン」 とは？

期間 12月20日（木）まで

内容

- ・ 学級ごとに競い合う
- ① ろう下を歩いている人が1人でもいたら=赤シール (1日1枚1ポイント)
- ② ろう下をはしている人1人につき青シール1枚 (マイナス1ポイント)
- ※最高得点は10ポイント

他に、保健体育委員会は、12月11日（火）の「ロングタイム」に『全校色団別リレー』を実施しました。全校のみんなに、もっと楽しく運動をしてほしいという願いからです。このように、各委員会それぞれに、オリジナルな活動を活発に行っています！